

サブロー寒天乾燥培地 (1ml 添加用) 使用説明書

マイクロバイオ株式会社

1. 特徴

通常の表面塗抹用培地では、検体 0.1ml 添加なのに対し、このサブロー寒天乾燥培地は精度が 10 倍の検体 1ml 添加を可能にした培地です。検体中の好气的条件下で発育可能な中温性の真菌を迅速に選択発育させ定量的に測定する事ができ、また混釈法に比べ操作時における培地からの熱ストレス(約 50℃)による死滅が無いのでさらに試験精度が高くなります。また、メンブレンフィルター法での使用にも非常に適しています。

2. 概要

サブロー寒天培地は主に医薬品・化粧品の微生物試験に用いられます。真菌の無菌検査や限度試験(総真菌数)の把握及び病原性、非病原性真菌の分離に使用する培地です。

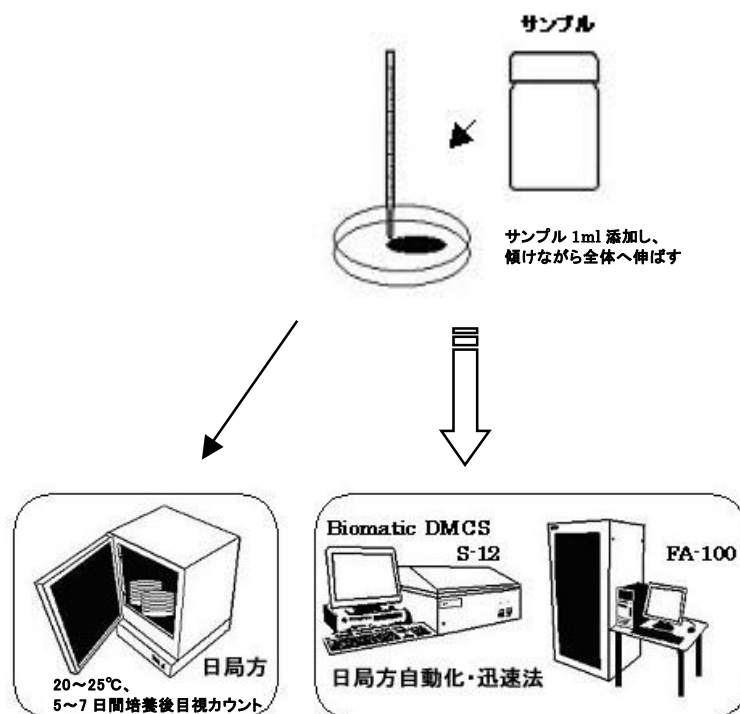
3. 検査の手順(20℃以上の環境で、クリーンベンチ等の無菌操作をお勧めします。)

3-1 1ml 寒天平板吸収の場合

注意) 包装袋内部に結露が観察されるような場合には、スリーブに入ったまま、35℃の保管庫で 2 時間ほど加温します。

3-1-1 検体を培地表面に 1ml 添加し、シャーレを傾けて全面に広げ 15～30 分程度静置させ、検体を培地に染み込ませます。

3-1-2 培地は蓋を下にし、20～25℃で 5～7 日間培養します。Biomatic DMCS(デジタル顕微鏡装置)にて測定する場合は、全自動で速く正確なコロニー数が計測できます。



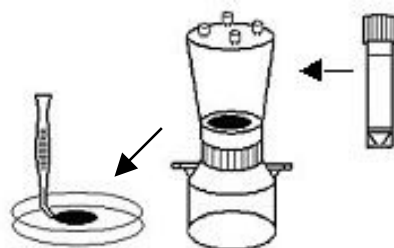
3-2 メンブレンフィルター法の場合

注意) 包装袋内部に結露が観察されるような場合には、スリーブに入ったまま、35°Cの保管庫で 2 時間ほど加温します。

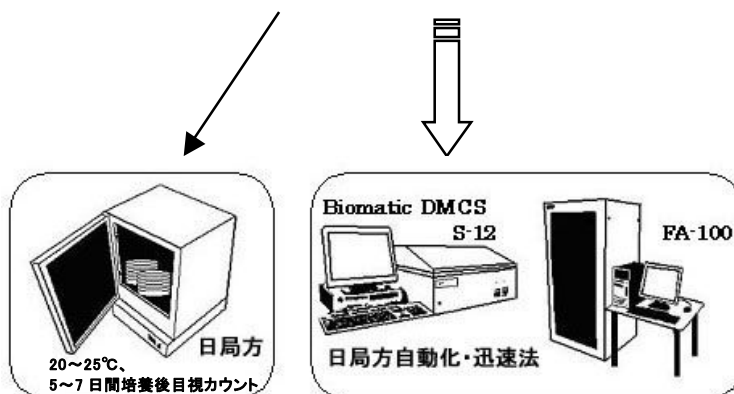
3-2-1 メンブレンフィルターにて検査する場合は、滅菌ろ過装置を用いて試料をろ過したのち、フィルターろ過面を上にして気泡が入らないように、培地表面に密着させます。

※ 微生物が付着している面を寒天培地に付着させないようにして下さい。

3-2-2 培地は蓋を下にし、20~25°Cで5~7日間培養します。Biomatic DMCS(デジタル顕微鏡装置)にて測定する場合は、全自動で速く正確なコロニー数が計測できます。

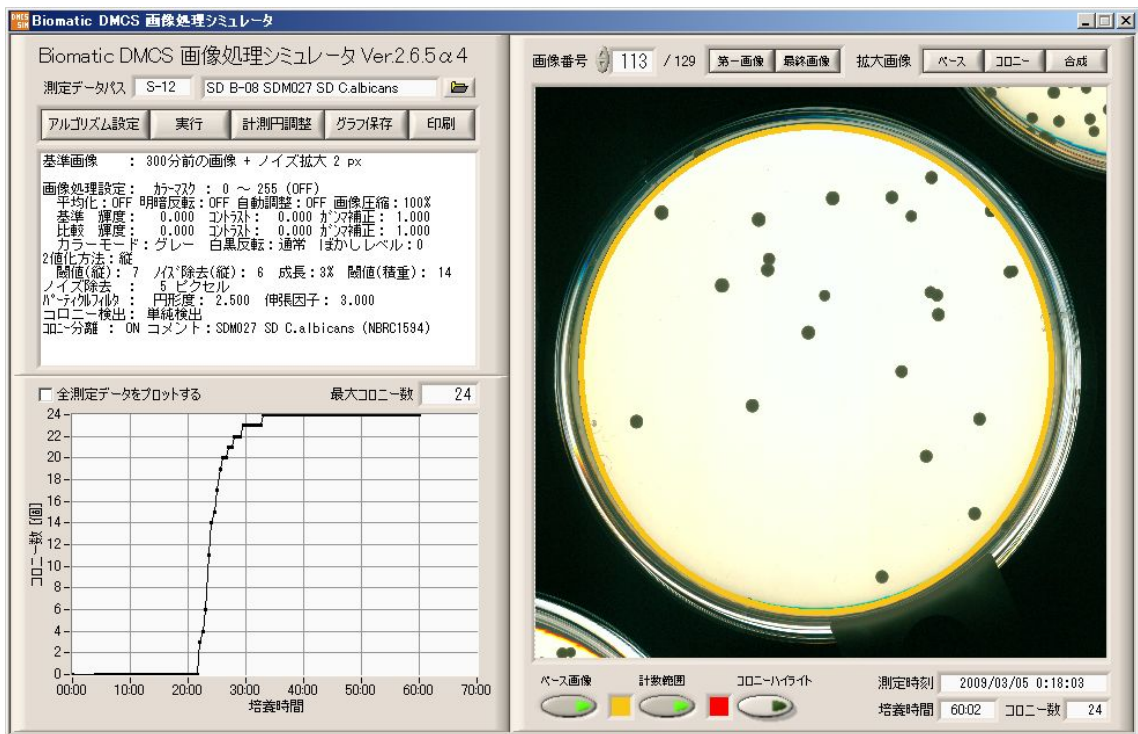


サンプルをろ過し、ろ過面を上にして
気泡が入らないように培地表面へ密着させる

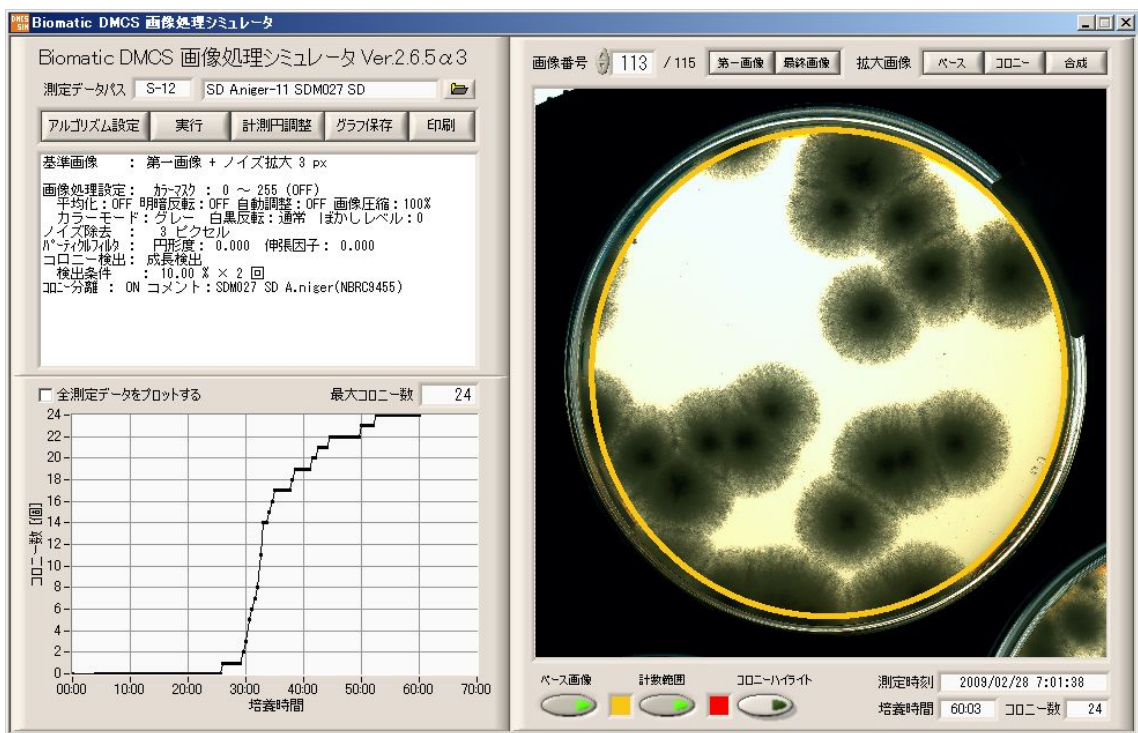


4. DMCS S-12 での測定例

4-1 1ml 平板吸収 標準菌株 *Candida albicans* (NBRC1594)の SDM027 での発育



4-2 1ml 平板吸収 標準菌株 *Aspergillus niger* (NBRC9455)の SDM027 での発育



4-3 メンブレンフィルター法におけるSDM027による測定例

